

金毘羅 續藤栗毛 初編 下之卷

十返舎一九 著



讀收圖座の各ハ諸國又毛ろがうて爰由賈
の都會すれハ繁昌殊よりぐもゆべ
續延よりて建つ紀。旅終屋たごも多し。
家居きよりひちあり。係次年を樹北ハも
内ははききて大物をとりいより入る事小。女ども出向ひ
コトハよも出せんと。サアあちかあかりなせ



たひろく。コリヤヤラ巾チナの揮ウツくとそめる。揮ウツくは

いかに生ウツるがごとく出ト舞ヒクふまふふとひゆめいなど。ト

いかに生ウツるがごとく出ト舞ヒクふまふふとひゆめいなど。ト

いかに生ウツるがごとく出ト舞ヒクふまふふとひゆめいなど。ト

いかに生ウツるがごとく出ト舞ヒクふまふふとひゆめいなど。ト

いかに生ウツるがごとく出ト舞ヒクふまふふとひゆめいなど。ト

いかに生ウツるがごとく出ト舞ヒクふまふふとひゆめいなど。ト

いかに生ウツるがごとく出ト舞ヒクふまふふとひゆめいなど。ト

とたざりひんうのうおつこひまや。とぞふけ

うとのゆげまふふふ。茶チ飲キと土ツ籠ルと賣ウる。

とたざりひんうのうおつこひまや。とぞふけ

とたざりひんうのうおつこひまや。とぞふけ

とたざりひんうのうおつこひまや。とぞふけ

とたざりひんうのうおつこひまや。とぞふけ

とたざりひんうのうおつこひまや。とぞふけ

とたざりひんうのうおつこひまや。とぞふけ

自主
天久
富の
人
ま
ん
ん
ん



新
人
か
く
推
ハ
ん
ん



「さういふと、おいらがらんぞい、^{はな}ふかむねが又むく
しそくすの、ひらうと死んたははまむね。今、^{はな}むね
結むすとあつびしや。ナア、^トコナ、^トまのりて、^{はな}むねの
おむ、^{はな}むねのよなをえんせ。夜よがよむらうハ、^{はな}むね
めくうら。おつし、^{はな}むねのままよ、^{はな}むねハ、^{はな}むね
南みなを、^{はな}むねのままよ、^{はな}むねハ、^{はな}むね
あんな、^{はな}むねのままよ、^{はな}むねハ、^{はな}むね
あんな、^{はな}むねのままよ、^{はな}むねハ、^{はな}むね

「さういふと、おいらがらんぞい、^{はな}ふかむねが又むく
しそくすの、ひらうと死んたははまむね。今、^{はな}むね
結むすとあつびしや。ナア、^トコナ、^トまのりて、^{はな}むねの
おむ、^{はな}むねのよなをえんせ。夜よがよむらうハ、^{はな}むね
めくうら。おつし、^{はな}むねのままよ、^{はな}むねハ、^{はな}むね
南みなを、^{はな}むねのままよ、^{はな}むねハ、^{はな}むね
あんな、^{はな}むねのままよ、^{はな}むねハ、^{はな}むね
あんな、^{はな}むねのままよ、^{はな}むねハ、^{はな}むね

と女おつし、^{はな}むねのままよ、^{はな}むねハ、^{はな}むね



おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

金比羅山

禁之

風景

三味線

の

山

の

山

の

山

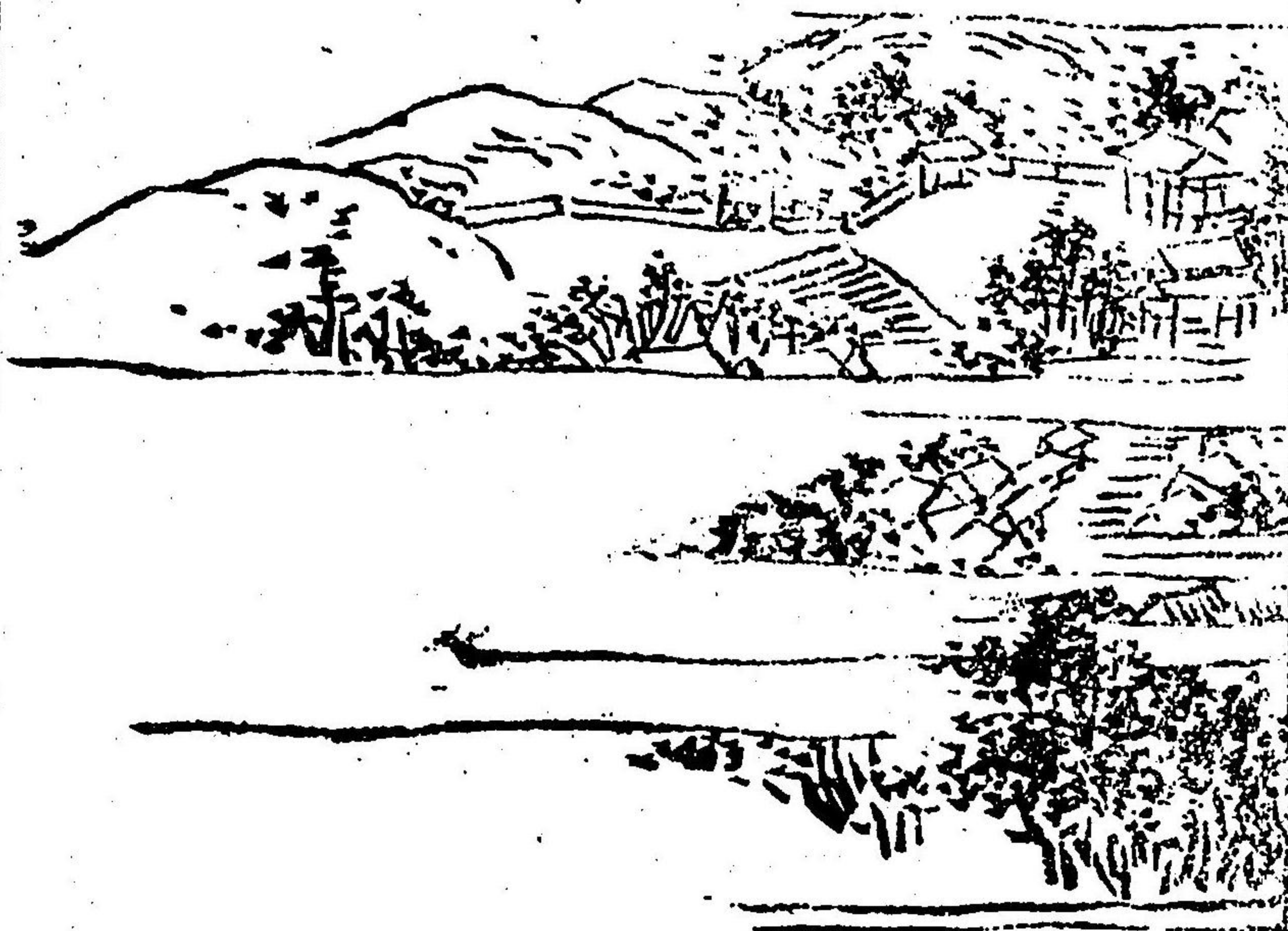
の

山

の

山

の



歩て仁王門より入十五六町の坂をのりて中本
社よりその庄殿いと高く。珠夜ハ檜皮草
みどりめく。花麗珠よりんをなり。先賢前
額突をりて。

十家蓋よ達せし人も神徳の

おもてふ志きぬ表此山ヶ野

此山より海上の島へ備く郷く一平の中
えよこへえりて。風葉いふもたあつ。ゆく下向の道

りては揚待所神馬堂のめりより。めよなり業よ
あつて。礎通とありしるりの。年の以林二三第と
ええ大いぶこの若元齋よしる。色白き女布子
のより。中敷の浴衣打。なり。かく帯よ裾より
あけ。よりトクけふて杖よとがりり。あといふ。六十
たりの親仁少の若物を脊負ひよるか。うち
は進てゆみぞ。孫次郎々の女よらるづねて。目もあ
がす。い近辺の方ともええぬか。女中のあお山へ

のち。さらよる人の王子がめろぞら。半斤のち。

畑よある。よやめろ。ワハニトひうちを中道通者よらる幸がら

ちやあよやまきんとある ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ

のぶあろうね。ワハニト。ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ

ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ

ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ

ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ

ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ

ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ

ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ

ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ

ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ

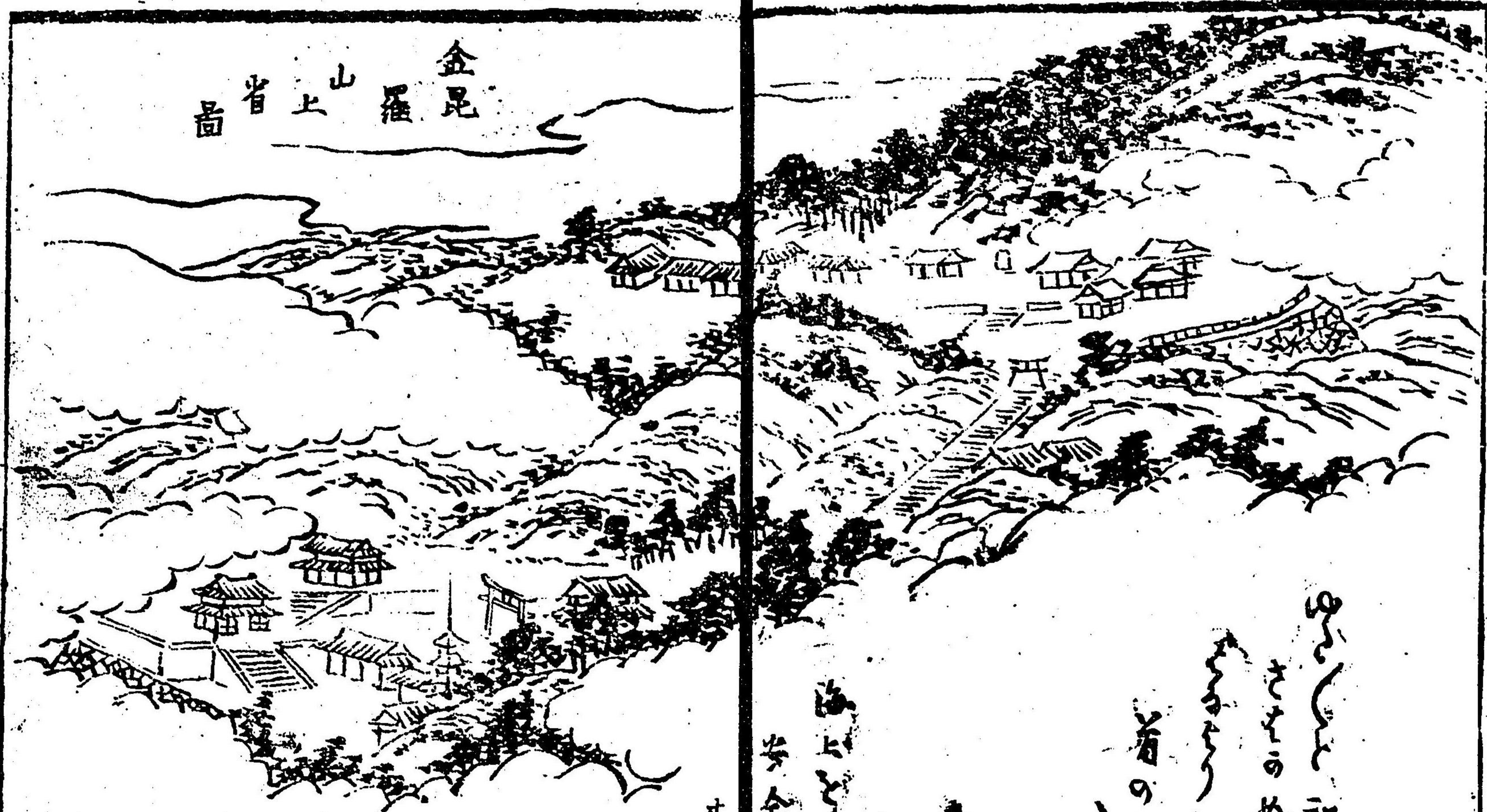
ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ

ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ

ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ

ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ ちやあよちやあよ

金 羅 山 上 省 岳



山形

山形

山形

山形

山形

唐子文頼

唐子文頼

山形

山形

山形

山形

山形

山形

山形

山形

山形

山形

のやうお静養のせんぞト引きやくてすけでのあやのせんを
ちかむコシクおらぐわうへもあつてくる人な
り

おんすーかろうのこころのこころの酒のおらつてやうと
アハめんごうとや。き味も二殊もと。うらぶらう
めんごうのてんせいイヤあまのさる酒とおらつて

大妻なまごりやり飯よせうらぶらうの
おひつたあつてゆくやうなうらぶらうのモナ
おらつてゆく。うらぶらうのうらぶらうのイヤあ

おのいそぬ大食ぶまコリヤあそれなく
おのいそぬのうらぶらうのうらぶらうの
うらぶらうのうらぶらうのうらぶらうの

うらぶらうのうらぶらうのうらぶらうの
うらぶらうのうらぶらうのうらぶらうの
うらぶらうのうらぶらうのうらぶらうの

うらぶらうのうらぶらうのうらぶらうの
うらぶらうのうらぶらうのうらぶらうの
うらぶらうのうらぶらうのうらぶらうの

曼陀羅寺より殊に險難の山坂を登ておらるるね
曼陀羅寺より殊に險難の山坂を登ておらるるね
曼陀羅寺より殊に險難の山坂を登ておらるるね

とありたのけしき。かきりまひりて女の泣はみか
さうら。さうらさうらとさうらに引まきり入るとよき所
女さうらよちあかやうさよ。泣き声さひさめて
可やくおめんどらうぞうら。下さうらゆらなげら
何きいよやぞうら。下何さうらめりのうさうら。の泣
あつて来さめいのおめいも承志であらよ。やアおん
可やくナさうらよちあかやうさのがさうらら。おん
さうらの。下アノナ持痛の疝毒があらうら。おん

さうらおめいむらうら。女は疝毒があつてはさうらめい
ナナイナ。アノや女やあらいさか。女でやうら。さ
えなうらら。男がさうらあめい。下但女男
ドレく。さうらさうら。下さうらさうら。下さうらさうら。下
おめいおめい。さうらさうら。下さうらさうら。下さうらさうら。下
さうらさうら。さうらさうら。下さうらさうら。下さうらさうら。下
おめいおめい。さうらさうら。下さうらさうら。下さうらさうら。下
さうらさうら。さうらさうら。下さうらさうら。下さうらさうら。下
おめいおめい。さうらさうら。下さうらさうら。下さうらさうら。下

赤村鼻を助とりてす。及於証の詳



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines across the page. The script is dense and characteristic of early modern European cursive. The document is written on aged, slightly yellowed paper with some visible staining and wear, particularly along the right edge and in the lower half. The text appears to be a formal record or a set of instructions, given the structured nature of the lines and the use of some specific characters that may represent numbers or dates. The overall appearance is that of a well-preserved but clearly old historical document.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. The script is dense and characteristic of early modern Japanese writing.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It consists of approximately 12 horizontal lines of dense, flowing characters. The text appears to be a continuation of the historical or administrative document on the adjacent page.

Handwritten text in Arabic script, likely a manuscript or ledger. The text is arranged in vertical columns, with some words written horizontally across the lines. The script is cursive and includes various diacritical marks and symbols. There are approximately 10 lines of text on the page, with some lines containing multiple columns of writing. The text appears to be a mix of descriptive phrases and numerical or tabular data.

Uso chisunobu ~ Nino meso de ni shi. shi. shi.

Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu.

Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu.

めばりー中裡森入ぞくまぢと

よりより入る食玉の論

Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu.

Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu.

Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu.

Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu.

Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu.

Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu.

Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu.

Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu.

Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu.

Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu.

Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu.

Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu.

Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu.

Uso chisunobu. Uso chisunobu. Uso chisunobu.



古登王福

長
の
独
の
さ
ら

ま
も
も

誰
か
も

誰
か
も

ま
も
も

ま
も
も

ま
も
も

ま
も
も

ま
も
も

ま
も
も

りうまよぬみもちいこふちヤ。どろなりと入りれあか
 くまじやませ^{あひ}ハテぬけるまづらるるか^{あひ}「それや
 てんやまやませ。ごういよはくぬみしちヤトあひ
あひ「イヤおめく下^ゲ結の歯たも入あひきりるるあひ」
 「ヤ。ア〜いし下^ゲ結のちりれよ。このそれくの
 おひいしごい人のちもりきおと^{あひ}「ア。ごうりきごう
 ろうきまねん。ごまよあうたりア〜りき〜^{あひ}「カニりん
 ー^{あひ}」^{あひ}「カト〜いせせえんせ。イヤア〜りり〜ん

ろうり。ち〜ち〜あひ〜の〜そのち〜のち〜
 むすのち〜^{あひ}「ア〜」
あひ「ア〜」^{あひ}「イヤ〜」
 又そのち〜の歯たをぬりれちヤア〜りやせんあひ
 ろうり〜せまきの歯たをぬりてあ〜
 る。その中あ〜ち〜ちもあ〜ら〜。それが〜ら〜
 ろ〜ら〜^{あひ}「ア〜」^{あひ}「ア〜」
 ろ〜ら〜^{あひ}「ア〜」^{あひ}「ア〜」

いえとるせぬやアアア。かよひさつひよ
りくもやアアア。アアア。アアア。アアア。ア
の。たろゆど外カの歯ハをぬらさるそのあやまう。ア
まの。そらく入レをくまう。アアア。アアア。ア
歯ハの不用ユなるう。アアア。アアア。アアア。ア
の「アアア」をぬらさる。アアア。アアア。ア
さる。アアア。アアア。アアア。アアア。ア
アアア。アアア。アアア。アアア。アアア。ア
アアア。アアア。アアア。アアア。アアア。ア

アアア。アアア。アアア。アアア。アアア。ア
お公オウのむー歯ハのぬき。アアア。アアア。
舌シタとぬき。アアア。アアア。アアア。
か。アアア。アアア。アアア。アアア。ア
仕シ物モノく。アアア。アアア。アアア。アアア。
かくるが。アアア。アアア。アアア。アアア。
丸マ龜カメの宿ヤ例レイの大物ダイモノ屋ヤあぞ。アアア。アアア。

多いえとるせぬキアアがう。がらあうよーと
 りあキアアがれ ^{イロ}アイロあさん。しとるあうよーと
 のなるゆど外の歯をぬいさそのあやまうよーと
 まう。ぞく入をくあうさうひらさよ下 ^ザ張ろ
 歯の不用よあうよのあさうふ。これさうれてあう
 の「 ^ハアんととせぬキアアがら。下 ^ハ張のまがわいの
 さうのさうののさうさうさう。サアは次さん
 りあ ^イアアア。初 ^トはあうり ^イアアア。サアは次さん
 りあ ^イアアア。初 ^トはあうり ^イアアア。サアは次さん

りあ ^イアアア。初 ^トはあうり ^イアアア。サアは次さん

初 ^トはあうり ^イアアア。サアは次さん

りあ ^イアアア。初 ^トはあうり ^イアアア。サアは次さん

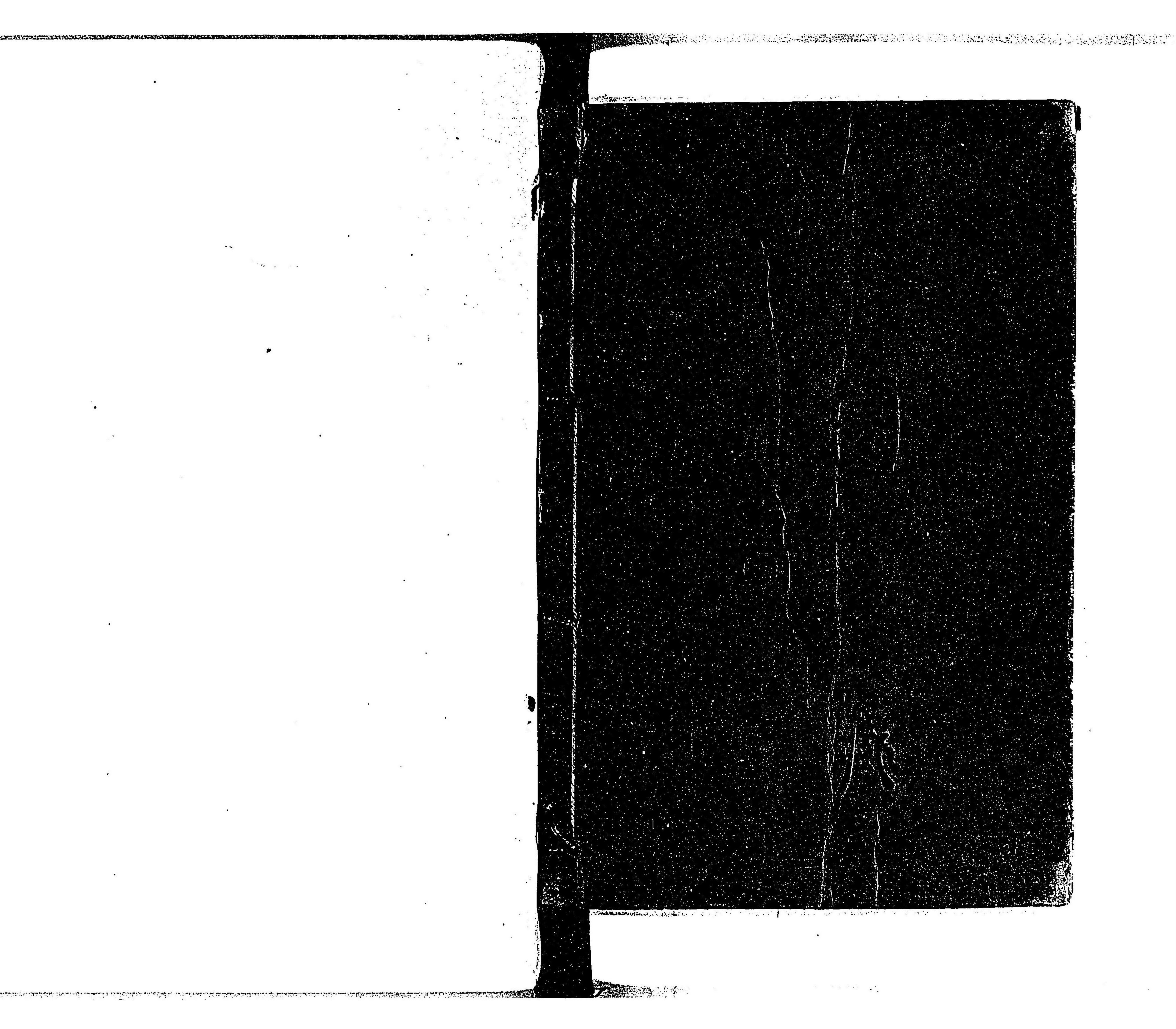
かくるがら。あうよのあさうふ。これさうれてあう
 仕 ^イアアア。初 ^トはあうり ^イアアア。サアは次さん
 かくるがら。あうよのあさうふ。これさうれてあう
 仕 ^イアアア。初 ^トはあうり ^イアアア。サアは次さん
 かくるがら。あうよのあさうふ。これさうれてあう
 仕 ^イアアア。初 ^トはあうり ^イアアア。サアは次さん
 かくるがら。あうよのあさうふ。これさうれてあう
 仕 ^イアアア。初 ^トはあうり ^イアアア。サアは次さん

金昆羅
參註

續藤原毛和編下卷終

是より九巻土船にて修め牛家日記より續列
海のありまの事修めたる事編むる事か
此事より修めたる事か修めたる事か
ありまの事修めたる事か修めたる事か
此事より修めたる事か修めたる事か
此事より修めたる事か修めたる事か
此事より修めたる事か修めたる事か

208
25
187



續滕栗毛

初編

下

208
25
787

208
787